

コンサベーション・インターナショナル (CI) コンサベーション・コーヒー・ プログラム

パナマ・コンサベーション・コーヒー

CONSERVATION
INTERNATIONAL



コーヒー栽培がもたらす生態系への チャレンジ

世界のコーヒー生産地の多くは、実は、生物多様性が豊かででありながら、破壊の危機に瀕している生態系に位置しています。そのため、栽培方法や栽培場所の選択が、環境に重要な影響を与えることになります。しかし、適切な農法や土地利用を行えば、コーヒー栽培は環境保全の非常に強力なツールとなることができます。伝統的なシェイドグロウン農法(熱帯雨林の木陰を利用した栽培方法)を維持すれば、動植物の保全に対して目覚ましい成果がもたらされることが分かっています。

コンサベーション・インターナショナル(CI)は、世界的なコーヒー企業との協働により、コーヒーのサプライチェーンにおけるすべての段階において生物多様性に対する配慮をとり入れ、環境問題を解決することを目指しています。

CIのコンサベーション・コーヒー・プログラムは、生物多様性ホットスポット内のコミュニティとの協働により、環境に配慮した生育方法によるコーヒー栽培に取り組んでいます。また、このプログラムは、CIが実施する技術支援やビジネストレーニング、環境教育などを通じ、国際市場の動向に左右される生産地の農家の生活の向上につながっています。

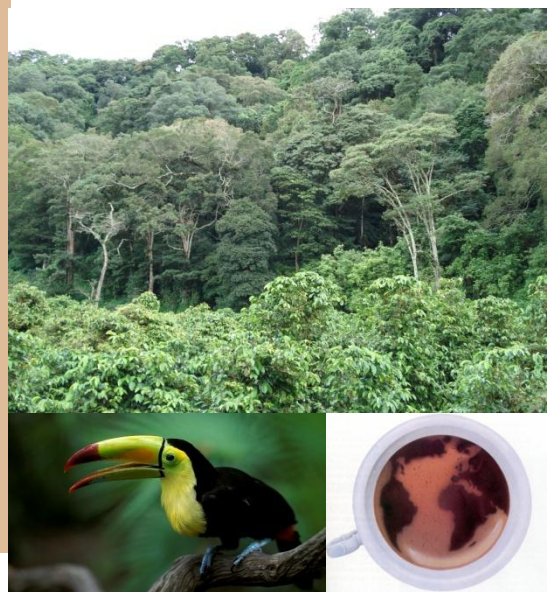
パナマでのコンサベーションコーヒー・プロジェクト

CIは、2004年よりパナマ北西部のラ・アミスタッド生物保護圏及びパルケ国立国際公園と、北パナマのボルカン・バルに沿ったボルカン、レナシミアント、ボケッテ等のコーヒー生産地において、コンサベーション・コーヒー・プロジェクトを実施しています。この地域には、ズキンベニアメリカムシクイ、レムリンヨザルなどの絶滅危惧種が生息していますが、生息地の多くが既に失われてしまいました。

パナマ・コンサベーション・コーヒー・プロジェクト(PCGP)では、対象地域の保全と森林再生に取り組み、この地域に生息する希少な生物種に新たな生息地を提供しています。36軒の農家や組合との協働により、ラ・アミスタッド自然保護圏のさらなる分断化を防ぎ、緩衝地帯に残る森林を保全するための重要な役割を果たしています。

2009年からは、トヨタ自動車環境助成プログラムの支援により、コストリカとの国境地帯のラ・アミスタッド生物圏保護区周辺に、コーヒー生産を利用した生物多様性コリドーと、コーヒー農家への支援を実施してきました。

PANAMA CONSERVATION COFFEE



コンサベーション・ コーヒーとは？

コンサベーション・コーヒー・プログラムは、生物多様性ホットスポット内にあるコーヒー生産地において、生物多様性を保全するための戦略のひとつです。コンサベーション・コーヒーのプロジェクトは、生産者とともに、生物多様性の保全と生産者の生活およびコミュニティの生計の向上に取り組むための手法として、**コンサベーション・コーヒー・ベスト・プラクティス(CCBP)**を開発しました。CCBPは各地域のニーズに応じて、適用・管理されています。各国のコンサベーション・コーヒーのパートナーは、以下のようなコーヒー生産とマーケティングにおける継続的な努力を通じて、地域の保全戦略に貢献しています。

- ・ 危機にさらされている動植物種の生息地の持続的な保全を促進する
- ・ 森林や他の原生生息地の開拓を防ぐ
- ・ 化学物質への依存を中止、もしくは減少させる
- ・ 水源地および水質の保全に努める
- ・ 土壌浸食を防ぎ、地力を高める
- ・ 荒れた土地への森林再生、もしくは生産性の高い農地へ転換する
- ・ 保全地域を守り、環境に関連した法規制に従う
- ・ コーヒー生産者への公正な報酬を確実なものとするために、商取引の透明性を高める
- ・ 生産、加エプロセスにおける付加価値の向上
- ・ トレーサビリティの確立

パナマのコンサベーション・コーヒー・プロジェクト(PCCP)では、パナマ北部の30件の農家とともに活動しています。対象地域は、高度1200 - 1900メートル、年平均降水量2,750ミリメートル、年平均気温19.7度の地域で、平均的な農場の広さは、一生産者あたり8ヘクタールです。平均生産量は、ボルカン、レナシメント、ボケッテ各地区より3コンテナです。さらにパナマ・コンサベーション・コーヒー・プロジェクト(PCCP)による潜在生産能力は10コンテナあります。

コーヒー豆は、各農家がウェットミルに搬送します。ミルでは、PCCPのコーヒー豆の洗浄と乾燥が行われます。基本的に機械乾燥を行っています。ミルも**コンサベーション・コーヒー・ベスト・プラクティス(CCBP)**の参加者であり、コーヒー輸出のための貯蔵や準備を行っています。コーヒーはメンバーが設定した品質に合致しているかどうか検査されます。パイロットグループはPCCPを通じて、トレーサビリティと透明性を確保するシステムに取り組んでいます。



プロジェクトがもたらす便益

持続可能な農業方法: コーヒー農家は持続可能な農業のためにCCBPの訓練を受けてきました。例えば、レナシメント地区では、化学殺虫剤が使われていましたが、今日では、化学物質に頼らず、農園整備によって管理されています。

生物種の保全: 保全地域内やその周辺地域では、多くの生物種がPCCPの恩恵を受けています。これらの生物種には、ズキンペニアメリカムシクイ、クロガシラオグロムシクイ、アカカンムリオウム、エスクードハチドリ、キミドリフィンチなどの鳥類や、ホエザル、レムリンヨザル、オオアリクイ、バクなどの哺乳類が含まれています。パナマに生息する279の絶滅危惧種の30%が、PCCPの中心地域で生息が確認されています。

農家への貢献: パートナーを通じて、CIは、高品質のコーヒーに対してプレミアム・プライスをつけるスペシャルティ・コーヒー市場において、バイヤーと参加農家をリンクさせることを目指しています。PCCPは、技術支援やビジネストレーニング、環境教育などを通じ、国際市場の動向に左右される農家の生活を向上させることができました。また、CIは**ヴェルデ・ヴェンチャーズ基金**を通じて、農家へ低利融資を提供する支援も行っています。

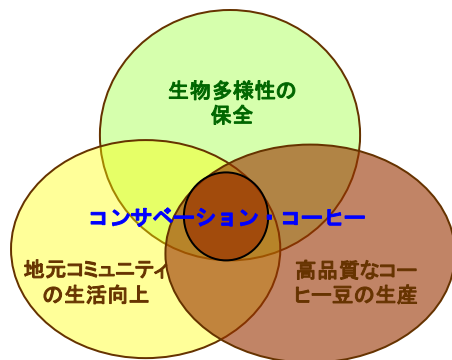
CIは、世界のコーヒー産業が生物多様性が危機にさらされている地域の保全に有効な戦略を作り上げることが目標にしています。

- ・コーヒーの調達決定時に、保全評価基準を取り入れること
- ・環境的に持続可能なコーヒー生産を推進する公共政策を推進し、インセンティブを形成すること
- ・コーヒー生産に影響を受ける生物多様性ホットスポット内の地域において、保全地域の拡大に向けた投資目標を設定し、地域ごとの保全計画に活動を取り込むこと
- ・コンサベーション・コーヒー・プログラムが実施されている地域への財政的、技術的支援を行うこと
- ・これらのプロジェクトで生産された高品質かつ持続可能なコーヒーのマーケティングを支援すること



フィンカ・ハートマン(Finca Hartman)はCIパナマの輸出事業パートナーで、世界中のバイヤーへコーヒーを輸出しています。指定ミルは、海上輸送のため最新の準備設備を整え、フィンカ・ハートマンが、バイヤー向けに、品質が保証されたすべての輸出用コーヒーの品質確認をしています。プロジェクトのミリングを担当するパートナーは、米国スペシャルティコーヒー協会(SCAA)による品質を評価と等級を採用しています。

ヴェルデ・ヴェンチャーズ基金: 生物多様性の保全上重要な地域における小規模事業者への低利融資を実施する基金。スターバックス社、地球環境ファシリティ(GEF)などからの出資を基に発足。CIが生物多様性保全戦略に沿って管理・運営している。



この資料に関するお問い合わせ:
**コンサベーション・インターナショナル
 日本プログラム**
 TEL: 03-6911-6640
 E-mail: ci-japan@conservation.org